

平成 26 年度 日野高等学校 第三者評価 評価書

【講評】

学校長は、総合学科の特性を生かして、地域に必要とされる学校となるよう、リーダーシップを発揮して学校を運営している。具体的には、中長期目標として、生徒一人ひとりを大切に育てること、多彩な行事への参加を通して地域に貢献する人材を育成すること、その結果として小さくてもキラリと光り輝く学校をつくること、を掲げ、管理職の指導の下、全教職員が協力して努力している。

通学圏が広域にわたること、また、必ずしも第1志望校への進学ではなかった生徒も在籍する中で、上記の目標の実現に向けて真摯に努力を続けている様子が見えてきた。在籍する生徒の実情を踏まえて、授業のユニバーサルデザイン化や、特別支援教育、生徒指導の体制など、教育体制を充実させ、良質の進路保障に結実させている点は高く評価することができる。高大連携や地域との交流も盛んで、生徒のキャリア意識の向上やコミュニケーション能力の育成に大いに役立っている。クラブ活動においては、射撃部と郷土芸能部の活躍が目覚ましく、今後、学校の特色づくりにつながることを期待される。

学校の設備が根雨と黒坂に分かれて存在しており、管理、維持、活用の面で課題が見られる。地域貢献の課題とも併せ、「日野高等学校魅力向上コーディネーター」との連携が期待される。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① 授業のユニバーサルデザイン化を研究し、効果をあげつつある点は評価できる。
- ② 少人数クラスの授業やきめ細かい課外講習など、生徒の個性に応じた教育が実践できている。
- ③ 学校独自の多彩な事業とキャリア教育とが連携し、進路決定率100%を実現している点は大きいと評価したい。
- ④ 射撃部と郷土芸能部の活躍が目覚ましく、今後の学校の特色づくりに生かしていただきたい。
- ⑤ 中学生一日体験、ちびっ子農業体験、鏡陵大学、福祉そば打ち、日野高ショップなど、地域に密着した多彩な取り組みで、異世代との交流を進めている点は評価できる。
- ⑥ 特別支援教育や生徒指導の体制が充実している。生徒支援ネットワーク事業の西部地区主幹校として研修を企画し、全教職員が統一した基準で指導にあたっている点は特筆すべきである。
- ⑦ 学校関係者評価委員会による評価・提言が次年度の自己評価計画に反映されており、システムとして適切に機能している。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 在籍する生徒数に比して部活動数が多く、部員が分散してしまう傾向が見受けられるので、生徒のニーズを見極めつつ、部活動の精選が必要である。
- ② グローバル人材の育成を図る取組、および手話に関する取組がやや少ない。学校や生徒の実情を踏まえつつ、事業計画に組み入れていくことを望む。
- ③ 社会人としての意識を育てる活動は行っているが、就職後の定着状況が今一つである、という自己評価であるので、今後有効な対策を講じていただきたい。
- ④ 組織的な授業改革について、授業公開や研究授業の実績が少ないので、今後はより活発な活動を期待したい。校内・校外研修について、今後は年間計画を作成して学校課題の解決に役立てていただきたい。
- ⑤ 生徒による授業評価アンケートや、保護者に対する学校アンケートの分析を行って公表している点は評価できるが、もう一步踏み込んだ分析や回収率の向上など、さらなる改善をお願いしたい。
- ⑥ 校舎が2か所にあることから、生徒の移動など効率面や安全面で課題がある。教育委員会と連携し、施設・設備の改善が望まれる。
- ⑦ P T A活動や行事への保護者の参加が少ないことが課題である。学校の置かれた実情としてやむを得ない部分もあり、学校としても大いに努力しているところではあるが、今後も不断の努力で参加率の向上に努めていただきたい。